

美術部くっちゃん美術館めぐり

8月4日、写真撮影と美術館鑑賞に出かけてきました。
まず訪れたのが、共和町南幌似にある明善寺。
あじさいと境内のあじさいの襖絵を撮影しました。
当日は多くの方が美しいあじさいのために庭の手入れをしていました。



次に訪れたのが、小川原脩記念美術館。小川原さんの初期から晩年までの作品を前に、館長さんより小川原さんの作品の解説をしていただきました。展示室の入口にはアイキャッチに晩年の「孤峰」が飾られ、若き日に旧日展で入選した重厚な「納屋」、セザンヌを思わせる「静物」、シュールレアリスムの影響を受けた作品、北海道の動物やアイヌ民族をテーマに描いた実験的な作品が並び、やはり目を引いたのは、動物たち、山々、アジアの風景でした。戦争画家としての自分の姿、人間の世界を動物におきかえて表現した後、リズムカルに表現したそびえたつ山々、おだやかな色調とタッチで表現したアジアの風景からは小川原さん自身もおだやかにすごされていたように感じられました。別室では、しりべしミュージアムロード共同展「青空」をテーマに、様々な作品が飾られていました。



その後、最寄りの風土館にも足をのばし、スバル360、ゼロ戦の主翼、動物のはく製などを楽しみました。きたろくグラウンドでは、ソフトボールの合宿が行われていました。

道すがら、尻別川、羊蹄山、畑、ひまわりなどを撮影し、倶知安をあとにしました。
今後は、撮影した写真をもとに新作、小川原さんの作風を参考に共同作品を作る予定です。

